



NO.165
令和8年10月発行
一般社団法人 埼玉県校外教育協会
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課内
TEL：048-830-6718
ホームページ

特集「令和7年度 校外教育協会委嘱研究」



令和7年度 第60回記念「郷土を描く児童生徒美術展」知事賞受賞作品

「自然」

坂戸市立若宮中学校 3年（当時） 千葉 祐美 さん

（作者から（当時））

夏休みに岩手県のおじいちゃんとおばあちゃんの家に行った時に見た空が美しいと思い、描きました。色を工夫したことと木の葉を一枚一枚丁寧に、リアルに表現しました。

主 要 内 容

- ・会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2）
- ・令和8年度通常総会、校外教育研究委嘱・・・・・・・・・・（3）
- ・令和7年度校外教育協会委嘱研究の概要・・・・・・・・・・（4～7）
- ・第61回「郷土を描く児童生徒美術展」・・・・・・・・・・（8）

美術と共に歩んできた我が人生

これからも先輩や仲間と共に郷土愛を育みます

～郷土愛を育む～ 埼玉県校外教育協会会長 山田一文



皆さんこんにちは。そして初めまして。この度、埼玉県校外教育協会の会長になりました山田一文です。前村上会長は、私の教育実習の指導教官だった出会いから始まり、教員人生の様々な場面で多くの示唆をいただいた先生です。感謝してもしきれません。その先生が長年続けてこられたこの職を引き受けることになったご縁に感謝すると共に、微力ながら役割を精一杯果たしていく所存です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、この度は、美術と共に歩んできた我が人生を、自己紹介を兼ねて語らせていただきます。

私が物心ついた頃の我が家は、常に油絵具の匂いが漂っていました。それは、父が自称日曜画家で、時間があれば油絵を描いていたからです。その姿を見ていたためか、私は自然と絵を描くのが好きになりました。最初は油絵ではなく、新聞広告の裏へのラクガキでした。今と違い昔は裏が無地の広告が多かったような気がします。一緒に暮らしていた祖母はそんな広告をまとめて取っておいてくれました。友達と遊ぶ時もよく絵を描きました。いろいろなヒーローが同じ画面に登場して敵と戦う姿を、広告の裏をつなぎながら広げていく描き方は、今思えばアベンジャーズの屏風絵を描いているのと同様でした。父は長男だったので親戚とその子供たちもよく我が家に集まりました。私は小さい子の面倒を見るのが得意でした。その面倒をみる方法は、リクエストに応じて絵を描いてあげること。カッコいい飛行機などの乗り物は、ヒーローの乗り物もよく描いていたので得意中の得意でした。女の子が好むかわいいキャラクターは、雑誌から模写して、ワッペンにしたり折り紙に貼り付けたりしてままごとなどにも使えるようにしてあげました。好きなテレビ番組はNHKの「できるかな」でした。ノッポさんがゴン太くんとのやりとりをしながら、身近にあるものを様々なアイデアでワクワクするものに作りかえる姿をワクワクして見ていました。番組が終わると材料集めに走りまわりました。好きなことに囲まれて、描いたり何かを作ったりすることが必ず人を笑顔にすると信じるようになった私が、美術の教員になり、その思いを広めようと思うようになったことは今思っても自然なことだったと思います。

時が経つにつれて、私の技術も多少上がりました。油絵でも父を超えたと思うようになりました。そんな思いが脆く崩れる出来事がありました。それは平成9年10月14日に父が他界し、喪主となった私が葬儀の準備をしている時のことでした。「父から油絵をもらって感謝している」との内容の電話が沢山かかってきました。話を聞くと、私が知らないところで、建築祝いや出産祝い、退職祝いなどの人生の門出に、父が絵を贈っていたことがわかりました。「父は自分のためだけではなく、誰かのために絵を描いていた」「人を喜ばせるために絵を描いていた」このようなことに気付かされたとき、「自分は父など超えていない、なんて狭い世界で絵を描いていたのだ」と強く思うようになりました。父のようになりたいと思う出来事でした。

父も私も好きな画家がいます。それは谷内六郎です。昔、赤とんぼの音楽をバックに女の子が「週刊新潮は明日発売で一す」というテレビコマーシャルがありました。その週刊新潮の表紙を永年飾っていたのが谷内六郎の絵です。彼の絵は日常生活で思ったこと、感じたことをとても素朴に描いていることが大きな魅力です。想像力の豊かさに、あるあると感じたり、ほのぼのしたり、驚いたり、感動したりすることもありました。これは、子供の作品を見る時も同じです。その子が思ったこと、感じたことに思いを馳せるときは、子供が、人間がとても愛おしく思えるひとときであり、そのひとときを味わうことは美術と共に生きる醍醐味だと思い、いつも大切にしています。

令和8年12月19日(土)・20日(日)は第61回「郷土を描く児童生徒美術展中央展」が埼玉県立近代美術館で開催されます。ぜひ足を運んでいただいて、子供と、人間と、郷土を愛おしく思えるひとときを過ごしていただけたらと思います。心よりお待ちしております。

令和8年度 通常総会

令和8年6月8日(月)に、埼玉県庁教育局分室で令和8年度通常総会を開催いたしました。

当日は、令和7年度決算などの2議案が提案され、全てが原案のとおり承認されました。

校外教育研究委嘱



令和7年度研究委嘱校による研究の概要については、次ページ以降に掲載していますので、御覧ください。また、令和8年度研究委嘱校及び研究テーマは以下のとおりです。



《令和8年度校外教育研究委嘱校及びテーマ》

さいたま市立新開小学校

「自ら問いをもち、自分の考えを基に、主体的・協働的に探究する新開っ子の育成 ～SDGs17の目標と関連付けて～」

美里町立大沢小学校

「緑あふれる学校づくりを目指す大沢っ子の育成」

三芳町立藤久保中学校

「三芳町教育政策「MOVEプラン」と連動した探究的校外学習の体系化に関する研究～「自分・社会・世界とつながる学び」を実現する三年間縦断的活動の構築～」

志木市立宗岡中学校

「地域とともに 笑顔あふれ たくましく 粘り強い生徒の育成」

「学校・家庭・地域と連携した持続可能な学習及び活動の実践」

委 嘱 校 朝霞市立朝霞第三小学校

1 研究主題

本校は周辺を河川や水田、田畑など多様な自然に囲まれている。これまでも立地を生かした自然体験を核とした学習や地域の方と連携した学習などを行ってきた。一方で学校を取り巻く環境の変化により、従前通りに活動を行うことについて課題も出てきている。児童にこれからも豊かな学びを提供できるよう、学校・家庭・地域と連携して取り組んでいくことを目指して本テーマを設定した。

2 本校の取組

(1) 稲づくり体験

本校敷地内には約70㎡の「田んぼ」が設置され、適宜補修を行いながら5年生の総合的な学習の時間と関連付けて稲づくりが行われている。地元農家の方とJAあさか野の方の協力をいただき、毎年5月の代掻きと田植え、9月の刈り取りまでを児童が体験する。米作りの過程の一部を手作業で体験することで、米作りの大変さを実感するとともに、農家やJAの方たちなどの米作りに携わっている方への感謝の気持ちをもつ貴重な機会となっている。収穫した米は精米後、家庭科の調理実習で炊飯し、自分たちで味わうことができた。どの児童も自分たちが育てた米であることも相まって、おいしく食べている様子が印象的であった。



(2) 野菜作り体験

本校に隣接して約230㎡の学校ファームがあり、主に2年生と特別支援学級が生活科と関連付けて野菜作り体験を学校応援団の方の協力を得ながら行っている。今年度は大根、サツマイモ、枝豆を栽培した。児童は生育状況を逐一記録に残し、学校応援団の方の専門的な話も聞きながら、作物栽培の大変さを実感すると同時に収穫の喜びを感じていた。

(3) ふれあいまつり

本校PTAを中心に実行委員会を組織し、11月に「FUN!FUN!FUN!20 楽しいことい〜っばい!!」と銘を打って自治会、NPO 団体、地域スポーツ団体、近隣商店、近隣企業が出店した。また、中学校生徒もボランティアとして運営に参加したり、吹奏楽部が発表を行ったりした。さらに小中の特別支援学級が合同で出店するなど、普段の教育活動の枠を超えた児童のふれあいが生まれている。自治会の方が用意した物品も好評であり、児童とのふれあいを通して「元気をもらった。」「来年はもっとこうしたい。」などと言ってもらえるなど、地域の方にとっても有意義な活動になっている様子が伺えた。



(4) 児童による活動

- ①学校を自然豊かな環境にしようと、児童環境委員会ではヒマワリなどの栽培を行っている。何を育てるのか、どのように行うのかなどは児童同士が話し合い、合意形成を図ったうえで実行に移している。
- ②生活科と関連付け、1年生が朝顔を栽培し、種を次年度の1年生への贈り物としているが、「新1年生が花道を歩いて入学できるようにしたい。」という児童の願いを踏まえて、ビオラやチューリップなどを栽培し、児童一人一人が丁寧に世話をしている。

3 成果と課題

(1) 研究の成果

- ・米作りや野菜栽培などの体験活動は地元農家や学校応援団の力添えにより、児童が実感を伴う活動となった。
- ・自治会や各種団体・企業等との交流は、自分が地域の中で生活しているという事を改めて自覚させ、今後につながる活動になった。

(2) 今後の課題

- ・持続可能という視点で研究を進めたが、教育課程への位置付け、属人的な活動・取組にならないような仕組み作りに困難さがあった。
- ・活動内容によっては予算措置が必要なものもあり、数年先を見越した施設や備品の修繕計画が必要となってくる。

「未来の創り手となるために必要な資質・能力の育成」 ～総合的な学習の時間と生活科の授業づくりを通して～

委 嘱 校 杉戸町立西小学校

1 研究主題

学校では、全ての子供を自立した学習者へと育て上げ、自らの学習を調整して学び続けられるようにすることが求められている。また、「みんなと同じことができ、言われたことを言われたとおりにできる」だけでなく、一人一人の児童が自分のよさや可能性に気づき、多様な人々と協働しながら様々な課題を解決していかねばならない。そこで、児童に「学んだことを実際の社会や生活に生かしたり、未知の状況にも対応したりできる力」を育成していくため、本研究主題を設定した。

2 本校の取組

総合的な学習の時間と生活科の授業を核としてカリキュラムマネジメントを行い、様々な体験活動を実施した。

○1年生「あそびにいいよう」

季節ごとに近隣の公園に遊びに出かけた。季節に対する感性も少しずつ豊かになり、秋になるとどんぐりやまつぼっくりを子どもたち自身が拾ってくることもあった。冬には「むかしあそび」として地域の方をお招きし、「竹とんぼ教室」を実施した。

○2年生「まちの人の話を聞こう」

近隣の駅や郵便局、銀行やケーキ屋等にインタビューに出かけた。インタビュー内容は子どもたちが日々の生活の中で疑問に感じたことをもとに考え、それぞれの質問に丁寧に答えていただいた。

○3年生「大発見！ぼくらは杉戸のすてき調査隊」

一年間を通して、杉戸町の魅力を調査した。数回に渡って杉戸町商工会の方にゲストティーチャーとして来ていただき、携わっている催し物の概要や、そこに込められている思いや願いについてお話しいただいた。

○4年生「わたしたちで杉戸の未来を守ろう」

一年間を通して身近な環境問題について考え、自分たちの町を住みよくしていこうとする学習を行った。その過程で、地区内のごみ拾いやごみ調査に出かけたり、環境保全のために各自ができることを考えて実験・実践をしたりした。

○5年生「地球をめぐる文化の旅へ」

単元の前半は日本文化の探究、後半は世界文化の探究を行った。特に、前半の日本文化探究では地域にお住まいの方をゲストティーチャーとして招聘し、様々な体験学習（着付け体験や生け花体験、書道体験やお雛子体験）を行った。

○6年生「未来の扉をひらこう」

単元の前半は自分の強みを伸ばす学習、後半は将来に向けてのライフプランを立案していく学習を行った。前半の学習では近隣の保育園や幼稚園に行き交流したり、ペットショップにインタビューに行ったり、全校除草の企画・運営を行ったりした。後半の学習では、保護者や地域の方々にゲストティーチャーとして来ていただき、「お仕事インタビュー」を行った。



3 成果と課題

○研究の成果

多岐にわたる体験の機会を設定したことで、児童の興味関心の幅が大きく広がった。また、外部講師による専門性の高い学習は、その分野が元から好き・得意だった児童にとって非常に有意義な機会となり、個性の伸長につながった。地域との関わりにより、地域には様々な伝統を受け継ぐ方々がいることや、自分たちが多くの人々に支えられていることに気付く児童が多くいたことも大きな成果である。

○今後の課題

「子どもたちにつけさせたい力」について共通理解を図り、どのような体験学習が効果的か精査していくことが今後の課題である。また、体験活動のために教科横断的なカリキュラムマネジメントを進めている一方で、各教科において伸ばすべき力が全員に定着しきっていないのも現状である。各教科で押さえるべき内容を確実に定着させ学びの基盤を作った上で、幅広い学びができるような体験の時間を確保していきたい。

「個別最適な学びと協働的な学びの実現」

委 嘱 校 さいたま市立西原中学校

1 研究主題

(1) 課題設定の理由

本校の生徒は、素直で与えられた課題には粘り強く取り組むが、自ら問いを立て、対話を通して考えを深める力には苦手意識がみられ、他者との協働における問題解決能力の向上が課題であった。そこで、変化の激しい時代に対応するため、校外における教育活動を、生徒一人ひとりが主体的に目的意識をもった学習過程として捉え、協働的な学習を通じて問題解決能力を育むことを目的とし、本テーマを設定した。

(2) 研究の視点

- ・視点A（個別の課題設定の工夫）：事前・事後学習において、生徒自身が役割や目標を自発的に設定する。
- ・視点B（集団での協働的な学びの場づくり）：地域住民や生徒同士の意見交換・協働により、物事の主体的な解決を図る。

2 本校の取組

(1) 地域との交流に関する取組

- ・彩の国オープンファクトリー2025 in 岩槻：地元工業団地の4社を取材し、効果的な広報手段について考え、企業と協同で動画を作成し、地域の特色をより深く理解した。
- ・ボランティア清掃・地域活動：環境委員等による地域清掃や、夏祭り・地域運動会でのボランティア活動を通じ、地域に生きる当事者としての意識と協働性を育んだ。
- ・土曜チャレンジスクール：地域の指導者と共に、自身の苦手な単元の学習に取り組んだ。

(2) 教育課程に関する取組

- ・岩槻フィールドスタディー：班行動による協働的な学習を通じて、地域理解を深めた。
- ・未来くるワーク：3日間の職場体験を行い、自身のキャリアデザインの構築に努めた。
- ・さいたまエンジン：地元企業（デサン、サイサン）と連携し、ICTを活用しながら、地域活性化の方策について検討した。
- ・校外学習：SDGs未来都市の比較調査を行い、地域が抱える課題の違いを学んだ。

(3) 小・中・高連携に関する取組

- ・小中合同あいさつ運動：小学校と連携し、より効果的なあいさつ運動の工夫・改善を行った。
- ・高校生の職場体験受け入れ：協働学習を通じ、卒業後の自身の姿について考えた。

3 成果と課題

(1) 成果

令和7年度全国学力状況調査において、「あなたの学校では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。」に関する肯定的な回答は95.1%となり、前年度から13.6ポイント向上した。

(2) 課題

協働する仲間を、自分とは異なる多様な考えをもつ存在としてとらえ、自分たちの考えをより良いものにするために探究する姿がより見られる課題設定やカリキュラムデザインの構築について、引き続き工夫・改善を行っていく。

「地域及び校外での体験活動を通し、生きる力を身につける生徒の育成」

委 嘱 校 熊谷市立三尻中学校

1 研究主題

現代の子どもたちは、地域との関わりや実体験の機会が減少している。そこで、地域や校外での体験活動を取り入れることで、生徒が実社会に触れ、主体性や社会性、コミュニケーション力を高めることができ、また、地域の防災や福祉などに関わる経験を通して、将来の地域の担い手としての自覚を育てることができる考える。

以上の理由から、本校では地域及び校外での体験活動を通して、生きる力を身につける生徒の育成をめざし、本研究主題を設定した。

2 本校の取組

(1) 3年 幼児とのふれあい体験・体育祭の園児参観

隣接するこども園と連携し、生徒が読み聞かせ、外遊び、制作活動などを通して幼児と関わった。また、園児を本校の体育祭に招待し、交流を図った。生徒は、幼児の行動特性や発達段階を理解しながら、優しく接することができた。



(2) 2年 職場体験学習

市内外の事業所の協力を得て、3日間の職場体験を実施した。生徒は、接客、清掃、製造補助、保育補助など、さまざまな職種を体験し、働くことの意義や社会の仕組みを学んだ。活動を通して、挨拶や礼儀の大切さや時間管理の重要性、責任をもって仕事をやり遂げる姿勢など、社会的スキルの向上が見られた。

(3) 特別支援学級 農作物の栽培と調理

校内の畑を活用し、種まき・水やり・草取り・収穫までの一連の農作業を体験した。生徒は、自然の中での作業を通して、植物の成長を実感し、継続して世話をする責任感を身につけた。



(4) 全学年 ふれあい講演会

地域で活躍する講師を招き、「命」「福祉」「地域貢献」「働くこと」などをテーマとした講演会を実施した。講師の体験談やメッセージを通して、生徒は自分の生き方や将来について考える機会を得た。

(5) 生徒会環境委員会による緑化活動

校内の花壇整備や植物の管理を通して、環境への関心を高めた。季節ごとの花が咲く学校環境づくりに貢献し、来校者からも好評を得た。ロードサポートや委員会活動を通して、責任感や継続力が育まれた。

(6) 校外学習・修学旅行

学年の発達段階に応じた校外学習や修学旅行を実施した。公共施設の見学、歴史学習、自然体験、文化体験など、多様な活動を通して、協働性・主体性・社会性を育む機会となった。

(7) 地域行事における生徒の活動

地域との連携を重視し、生徒は八坂神社大祭への参加や、公民館作品展への作品出品、環境委員による除草活動など、さまざまな地域行事に主体的に取り組んだ。これらの活動を通して、地域社会への理解と貢献の意識が育まれた。



3 成果と課題

地域との多様な関わりを通して、社会性が高まり、自ら考えて主体的に行動する生徒が増えた。また、達成感のある体験や感謝される経験を通して、「自分は役に立てる」という実感が生まれ、自己肯定感が向上するとともに、責任感や課題解決力の伸長も確認できた。

一方で、体験先や新たな学習資源の確保など、地域との連携体制を継続的に強化する必要があり、持続可能な協力関係の構築が課題となっている。

第61回「郷土を描く児童生徒美術展」

趣 旨 「郷土を描く児童生徒美術展」は、児童生徒が郷土を描き、その作品による展覧会を実施することによって、郷土埼玉に対する理解と認識を深め、郷土愛の高揚を図ろうとするもので、「埼玉県芸術文化祭2026地域文化事業」の一環として行います。

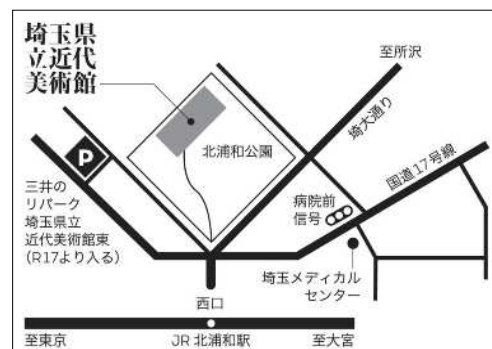
主 催 埼玉県校外教育協会 埼玉県 埼玉県教育委員会 埼玉県芸術文化祭実行委員会

共 催 さいたま市教育委員会 埼玉県市町村教育委員会連合会 埼玉県美術教育連盟

期 日 中央展覧会
令和8年12月19日(土)～12月20日(日) 10時00分～16時30分 (12月20日は16時00分まで)
知事賞作品120点を展示します。
受賞者名簿(知事賞)は校外教育協会のHPに11月中に公開する予定です。

会 場 埼玉県立近代美術館
(さいたま市浦和区常盤9-30-1)
【電車】
JR京浜東北線北浦和駅西口徒歩3分(北浦和公園内)

関係者を除く一般の方への駐車場の開放は行いません。
御来場の際は、公共交通機関等の御利用をお願いします。



～第60回記念美術展の作品から～

表 彰 優れた作品には、賞状を授与します。

【区分】

特選：約1,010点
(知事賞作品120点を含む。)

入選：約10,000点

知事賞作品は「画集 埼玉子どもの絵」
(埼玉新聞社発行)に掲載されます。



「うららかな春色に染まる城」
行田市立忍小学校 6年 (当時)
栗盛 真弥 さん

H P [埼玉県 校外教育](#) で [検索](#)
すると協会のトップページから入れます。

(作者から(当時))
学校から見える忍城は、春になると沢山の桜が咲きほこり、とてもきれいです。水攻めに屈しなかった城をよく観察し、鯨や石垣など1つ1つていねいに描きました。